

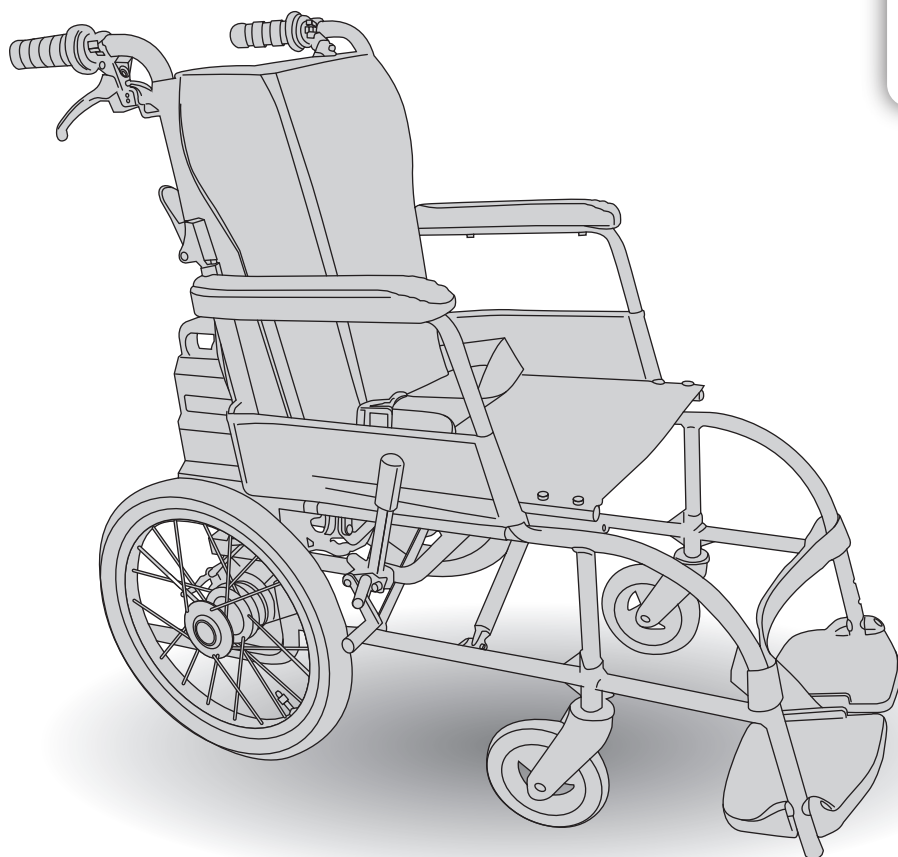
介助用電動アシスト車いす

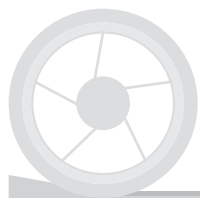
ASSIST WHEEL

アシストホイールライト

取扱説明書

アシストホイールライトは、車いすを押す力を電動モータで補助し、介助者をサポートするアシスト機能（電動補助装置）付の車いすです。ご使用されるときは、必ず介助者が操作してください。





はじめに

この度は、アシストホイールライトをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- ・本取扱説明書は、アシストホイールライトを操作される介助者を対象として、取扱方法を説明しています。
- ・はじめに本書をよくお読みいただき、正しく安全にご使用ください。
- ・お読みになった後は、必要な時にいつでもご覧になれるよう、お手元で大切に保管してください。
- ・本書には保証書も含まれていますので、紛失または汚損しないようご注意ください。

※アシストホイール／ASSISTWHEEL は、ナブテスコ株式会社の登録商標です。[No. 4220105,4220106]

※アシスト／ASSIST は、ナブテスコ株式会社の登録商標です。[No. 4332604,2168132]

製品改良のため、本書に記載している仕様の一部を予告なく変更することがあります。

安全に関する表示

表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区分し、説明しています。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定される場合を示しています
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う危険な状態が生じることが想定される場合を示しています
注記	取扱いを誤った場合、物的損害のみが発生することが想定される場合を示しています

お守りいただく内容の種類を、下記の記号で区分し、説明しています。

	製品の取扱いにおいて、その行為を禁止する内容を示しています
	製品の取扱いにおいて、指示に基づく行為の内容を示しています

その他、知っている役立つ事項などを、次の記号で区別し、説明しています。

 ポイント	製品の取扱いにおいて、正しい操作方法や知っている役に立つ事項を示しています
---	---------------------------------------



安全上のご注意

■ 本体に関する取扱注意



警告

準備・保管



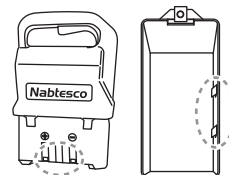
バッテリーは充電の残量に余裕があるものを使用する

走行中にバッテリーの電力が切れると、操作が制御できなくなるおそれがあります。



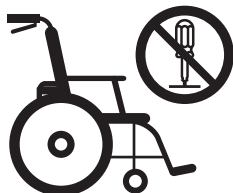
バッテリーおよびバッテリー収納部の端子部には衝撃を与えない

端子部に金属片などを当てたり、強い力を与えたりすると、電源が喪失し事故につながるおそれがあります。



車いすを分解・改造しない

思わぬ事故や機器の故障につながるおそれがあります。



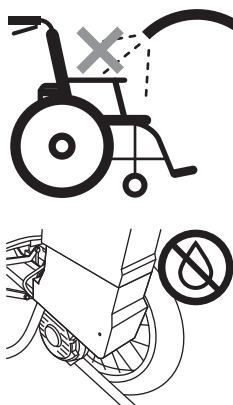
車いすから離れるときは、必ず電源を切り、駐車ブレーキをかける

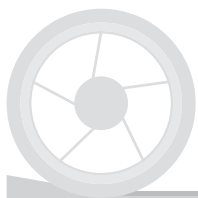
車いすが勝手に動き出し、事故につながるおそれがあります。



- 車いすを水洗いしない
- 車いすを水でぬらさない
- 結露しているときは使用しない

車いすを水洗いしたり、水のかかる場所に放置したりすると、電気系統の故障、誤動作、さびにより、破損するおそれがあります。





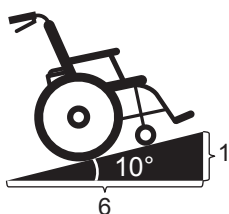
警告

走行



車いすは、 10° （約 1/6）を超える坂道で
使用しない

転倒などの事故につな
がるおそれがあります。



車いすを傾斜地に駐
車や停車しない

転倒などの事故につな
がるおそれがあります。



滑りやすい路面や濡
れた路面では使用し
ない

車いすがスリップして、
事故につながるおそれ
があります。



坂道の途中で電源を
切らない

アシスト機能が失われ
ると、車いすを支えき
れず、事故につながる
おそれがあります。



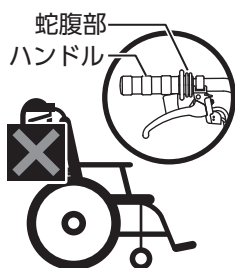
車いすの旋回はゆっ
くりとする

急に旋回すると搭乗者
が車いすから落下する
おそれがあります。



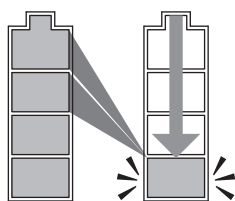
ハンドル部やハンド
ルの蛇腹部に荷物を
かけたり、ハンド
ルの蛇腹部に触れたり
しない

アシスト機能が意図せ
ず起動し、操作が制御
できなくなるおそれ
があります。



バッテリー残量が 3 個
以上から急に 1 個に
減少した場合は使用
を中止し点検する

アシスト機能が失われ
ると、車いすを支えき
れず、事故につながる
おそれがあります。





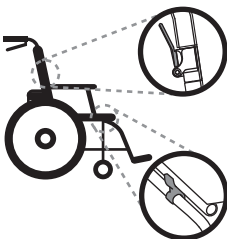
⚠ 注意

準備・保管



車いすの座シートと背折れジョイント部がきちんと固定されているか確認する

折りたたみ部を開いたとき、ロックが不十分ですと、事故につながるおそれがあります。



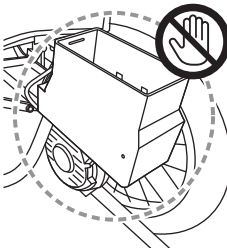
車いすの折りたたみ部の開閉時は可動部に手を挟まないようにする

可動部に手が挟まれると、けがをするおそれがあります。



車いすの使用後および使用直後はモーターとバッテリー収納部下面には触らない

使用状況により、高温になることがありますので、触るとやけどをするおそれがあります。



車いすの走行時以外は、アシスト機能の電源を切り、バッテリーを外す

バッテリーを装着したまま保管や整備をすると、意図せず電源が入り、事故につながるおそれがあります。



子供が触れる場所に放置しない

いたずらなどにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

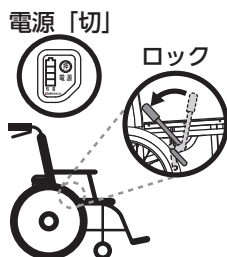


乗車・降車



搭乗者が乗降するときは、アシスト機能の電源を切り、駐車ブレーキをかけて、タイヤをロックする

急に車いすが動き出すと、搭乗者がけがをするおそれがあります。



車いすの搭乗者は75kgを超えない(積載物含)

転倒などの事故につながるおそれがあります。



搭乗者が車いすに乗降するときは、フットレストを上げる

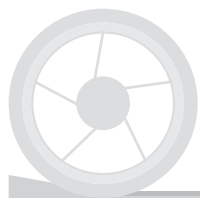
フットレストを下ろしていると、フットレストに足をひっかけ転倒するおそれがあります。



搭乗者が乗降するときは、フットレストに体重をかけさせない

フットレストに負荷がかかると、フットレストが破損したり、転倒によりけがをしたりするおそれがあります。





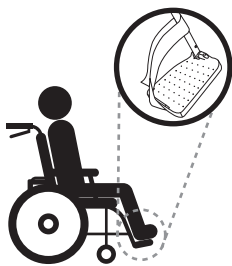
走 行



走行中に搭乗者の足がフットレストから落下しないよう、走行前に以下のことを確認する

搭乗者の足が落下して地面やキャストに接触すると、けがをするおそれがあります。

- フットレストとヒールストラップが車いすに正しく設置されている
- 搭乗者の足が確実にフットレストの上に乗っている
- 搭乗者の足元がヒールストラップに当たっている



走行前に搭乗者がシートベルトを締めてきちんと座れているか確認する

搭乗者が正確に座れていなかった場合、車いすから落下するおそれがあります。



走行前に搭乗者と介助者の服や装飾品が車輪に巻き込まれていないか確認する

車輪に巻き込まれていると、体の部位が圧迫され、けがや窒息をするおそれがあります。



アシストホイールライトの操作は介助者がする

アシストホイールライトは介助者を補助するための車いすです。



搭乗者は車輪や駐車ブレーキに触らない
走行中、搭乗者の手が車輪や駐車ブレーキに触れると、けがや転落するおそれがあります。



注 記



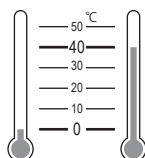
駐車ブレーキをかけたまま走行しない
車いすが故障するおそれがあります。



車いすや充電器の配線を引っ張らない
配線を引っ張ると断線するおそれがあります。



車いすとバッテリーは0～40°の環境で使用する





■ バッテリー・充電器に関する取扱注意



警告



バッテリーは、付属の充電器で充電する
専用の充電器以外を使用しますと、バッテリーが漏液、発熱、破裂するおそれがあります。



バッテリーを加熱したりショートさせたりしない
発火や破裂するおそれがあります。



バッテリーを分解・改造しない



幼児やペットを近づけない
いたずらにより誤った操作をされると、大変危険です。



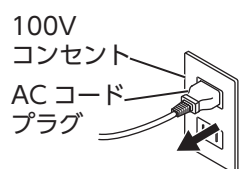
注意



- バッテリーと充電器を落下しそうな場所に置かない
- バッテリーと充電器を水気のある場所に置かない
- バッテリーと充電器を水中に投下しない
衝撃や水は、充電不良および損傷の原因となります。



充電器に異常が発生した場合は、すぐに充電を中止する
充電を続けると、機器の損傷や火災のおそれがあります。
ACコードのプラグをコンセントから抜いてください。(P5 参照)

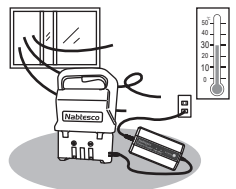


ACコードのプラグや充電コネクタには触らない
けがや機器の損傷につながるおそれがあります。



充電は下記の条件を満たす環境で行う
守られなかった場合は、充電機能の低下やバッテリーが発熱するおそれがあります。

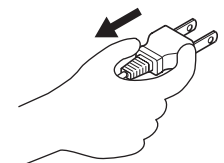
- バッテリーと充電器の周囲に物が無い
- 平坦で安定した場所
- 温度が 10 ~ 30℃に保たれる場所



バッテリーの端子部はお手入れ時以外触らない
充電不良および損傷の原因となります。



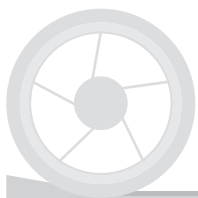
ACコードはプラグを持って抜く
線を引っ張ると断線するおそれがあります。





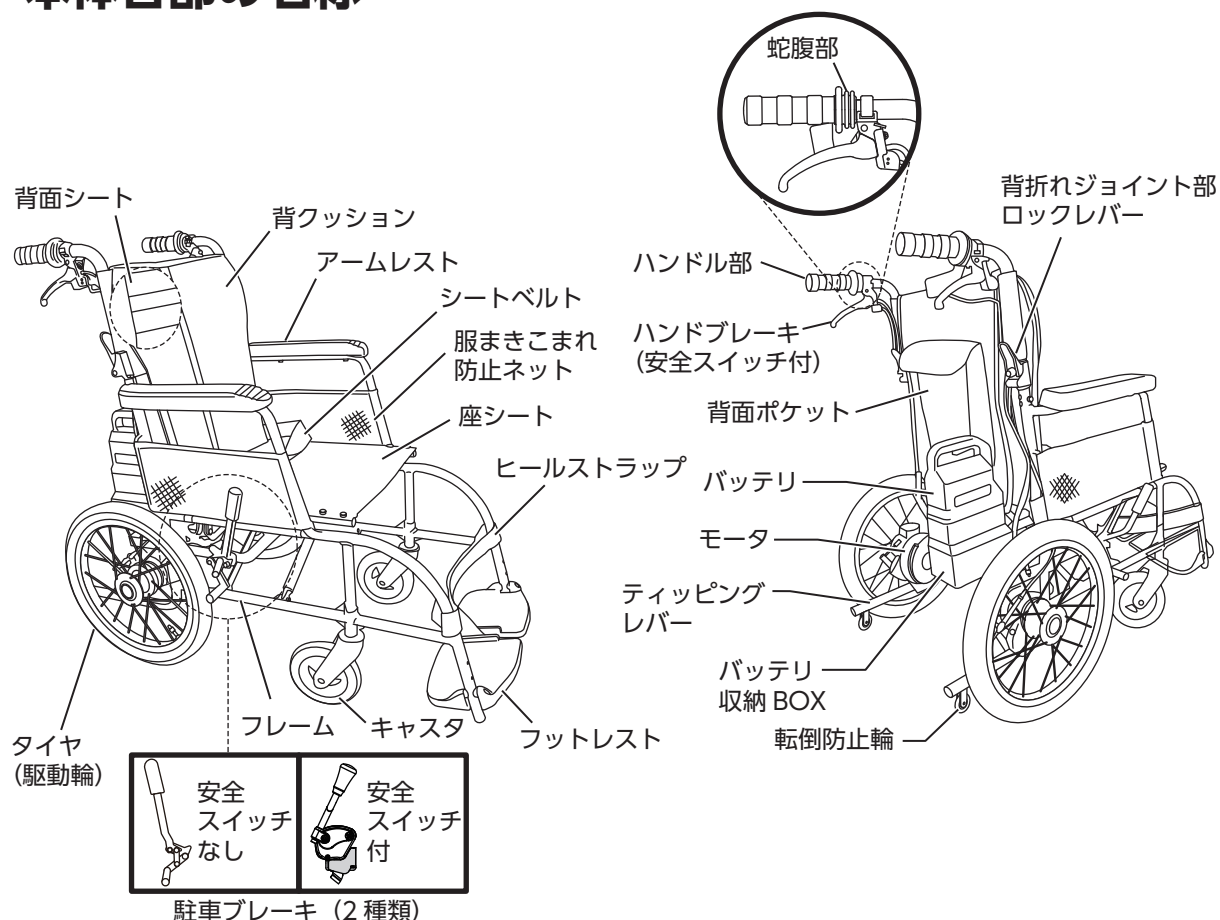
もくじ

はじめに	1	● 収納場所	25
安全に関する表示	1	● バッテリーの外し方	25
安全上のご注意	2	車いすの折りたたみ方	26
本体に関する取扱注意	2	バッテリーの取扱方法	28
バッテリー・充電器に関する取扱注意	6	バッテリーの長期保管	28
本体各部の名称と梱包内容	8	バッテリーの点検と交換	28
本体各部の名称	8	● バッテリーの点検	28
梱包内容	8	● リサイクル	28
車いすの運搬	9	バッテリーおよび充電器の各部名称	29
車いすの運搬の準備	9	充電器表示ランプの内容	29
車いすの運搬・積込方法	9	バッテリーの充電方法	30
車いすの準備	10	● 充電の手順	30
アシスト機能の取扱方法	12	● リフレッシュ充電の方法	31
使用の準備	12	保守・点検	32
保護機能	13	保守・点検の必要性	32
● 過負荷防止機能	13	点検の種類	32
● 加速防止機能	14	点検一覧表	33
● オートパワーオフ機能	14	点検チェックリスト	36
残量表示ランプの内容	15	● 使用前点検のチェックリスト	36
● バッテリーの残量表示	15	● 日常点検のチェックリスト	36
● アシスト機能の異常表示	16	使用前点検	37
車いすの乗り方	17	● 確認方法	37
車いすの運転方法	19	日常のお手入れ	38
ブレーキの操作	19	車いすをぬらした場合のお手入れ	39
● 駐車ブレーキの操作	19	故障かな?	40
● ハンドブレーキの操作	20	車いすの走行時	40
車いすの操作	21	バッテリー充電時	41
● 走行前の確認事項	21	製品仕様	42
● 車いすの操作方法	21	介助用電動アシスト車いす	42
車いすの降り方	24	充電器	42
車いすの保管	25	保証とアフターサービスについて	43
車いすの保管方法	25	保証規定	43
		● ご注意	43



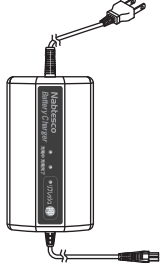
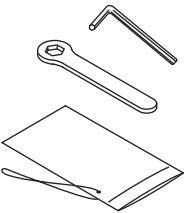
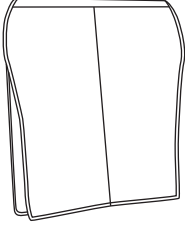
本体各部の名称と梱包内容

■ 本体各部の名称



■ 梱包内容

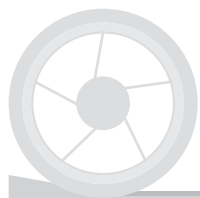
本体以外の梱包内容を以下に示します。一覧と梱包内容が一致しているか確認してください。
万一、内容に不足があった場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

標準梱包				
バッテリー 	充電器 	スパナ 六角レンチ 	背クッション 	取扱説明書 



ポイント

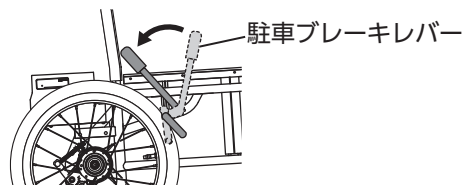
車いすを初めて使用する前に、バッテリーを必ず充電してください。(P30 参照)
同梱されているバッテリーは安全上のため充電していません。



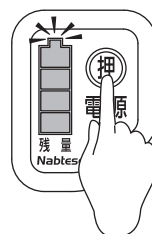
車いすの運搬

■ 車いすの運搬の準備

- 1 駐車ブレーキをかけ、タイヤをロックします。
(P19 参照)



- 2 電源が入っている場合は、電源を切ります。
残量表示ランプが消灯するまで、電源スイッチを長押ししてください。



- 3 バッテリーを取り外し、車いすを折りたたみます。(P25 参照、P26 参照)

■ 車いすの運搬・積込方法



注意

車いすの可動部（タイヤや折りたたみ部など）を持たない

車いすを持ち運ぶとき、車いすの可動部を持つと、思わぬ動作により手を挟んだり車いすを落とすおそれがあります。

- 1 車いすの固定部をしっかりと持ちます。
- 2 車に積み込み、車いすを固定します。
固定方法は運搬する車や固定ベルトなどのマニュアルを参照してください。

注記

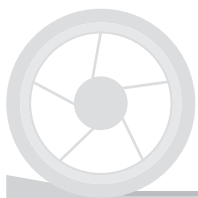
• 運搬中に車いすが破損しないよう注意する

アームレスト、フットレスト、ブレーキ部、バッテリー収納部などを持って持ち上げたり、運搬したりすると、機器の破損につながるおそれがあります。

車いすの上に荷物を載せたり、周囲の物が荷崩れを起こしたりすると、車いすが故障するおそれがあります。

• 運搬するときはハンドル部およびバッテリー収納部に衝撃を与えない

ハンドル部、バッテリー収納部に衝撃を与えると、機器が故障するおそれがあります。



車いすの準備

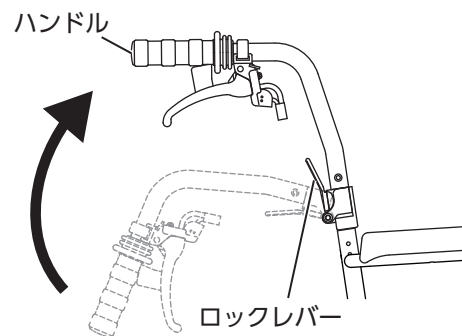
車いすを使用するための準備をします。

1 折りたたまれているハンドルをセットします。

〔ハンドルのセット方法〕

- 1) ハンドル部を握り、カチッというはめ込み音が聞こえるまでしっかりと上げてください。
- 2) 背折れジョイント部のロックにより、ハンドルが完全に固定されていることを確認します。

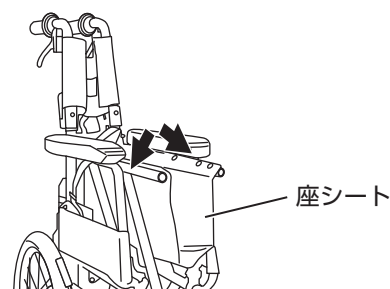
※ ロックの解除方法は P27 を参照してください。



2 座シートを開きます。

〔座シートの開き方〕

- 1) 座シートを左右に軽く開きます。



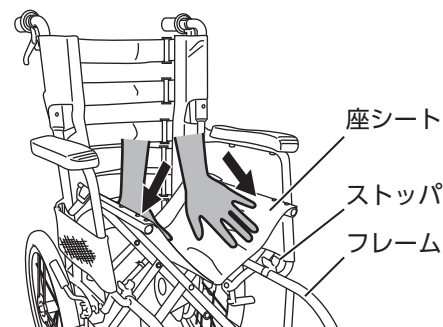
- 2) フレームのストッパにはまり込むまで、座シートの左右のふちを手のひらで押します。



注意

座シートのふちを握らない

座シートとフレームの間に手を挟み、けがをするおそれがあります。

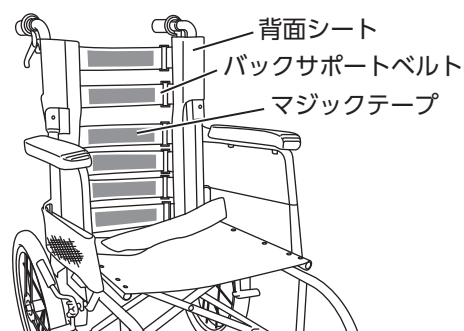


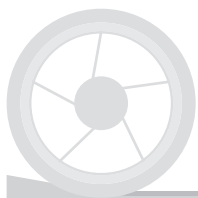
3 背面シートのバックサポートベルトのマジックテープが、はずれていないか確認します。



ポイント

背面シートのバックサポートベルトで、背面シートを搭乗者の体型に適した形に調整することが可能ですが、細かな調整が必要となります。調整をしたい場合は、専門知識をお持ちの方に依頼してください。

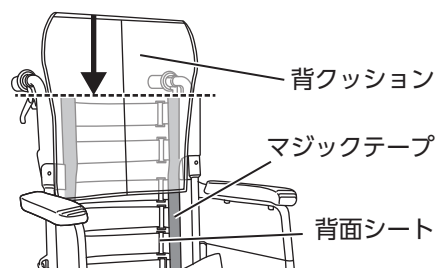
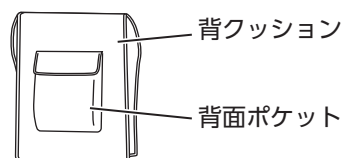




4 背クッションをセットします。

〔背クッションのセット方法〕

- 1) 背クッションのポケットのついている側が後ろになるよう向きを合わせます。
- 2) 背クッションの折り目と背面シート上部の位置を合わせ、背面シートに上から被せます。
- 3) 背クッションと背面シートのマジックテープを合わせ、しっかりと押さえつけて固定します。



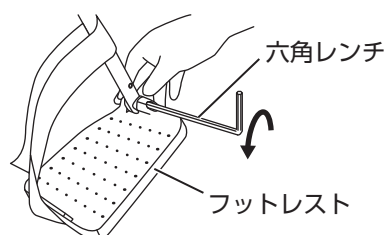
5 フットレストの高さを搭乗者に合わせて調整します。

〔フットレストの高さ調整〕

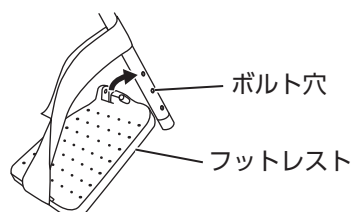
- 1) フットレストの接続部を持ち、付属の六角レンチでフットレストのボルトとスペーサ（2個）を取り外します。



ナット落下防止のため、ボルトをゆるめた後、ナットを軽く指で押さえてください。



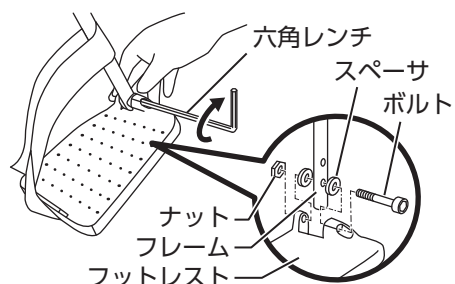
- 2) 搭乗者に合う位置のボルト穴にフットレストを合わせます。



- 3) 付属の六角レンチでボルトを締め付け、フットレストを固定します。



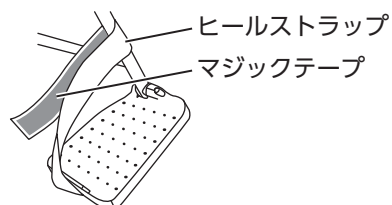
フットレストのボルトをしっかりと締め付ける
ボルトが緩んでいると、走行中にフットレストが外れ、
足が落下するおそれがあります。

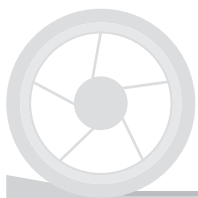


- 6 ヒールストラップの張りを搭乗者に合わせて調整します。
マジックテープで長さを調整してください。



ヒールストラップの長さが、搭乗者に適しているか
確認する
ヒールストラップが搭乗者に適していないと、足が
落下するおそれがあります。





アシスト機能の取扱方法

■ 使用の準備

車いすでアシスト機能を使用するための準備をします。



注意

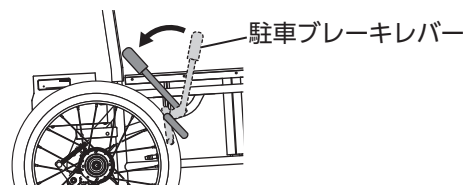
- 遠出をするときは、満充電されたバッテリーを使用する
- 残量に余裕のあるバッテリーを使用する
- 車いすの使用中にアシスト機能が失われると、車いすを支えきれず事故につながるおそれがあります。

- 1 駐車ブレーキをかけ、タイヤをロックします。
(P19 参照)



警告

- 車いすを使用するときは駐車ブレーキをかける
タイヤがロックされていないと、車いすが動き出し、
事故やけがにつながるおそれがあります。
- 車いすは平地に駐車する
傾斜地での乗り降りは大変危険です。



- 2 充電済のバッテリーを準備します。バッテリーの取扱いについては P28 を参照してください。

- 3 バッテリーの取っ手をしっかり握り、バッテリーのロックを解除します。



ポイント

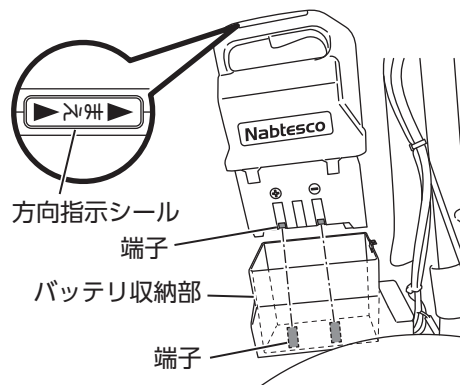
バッテリーのロック解除レバーはバッテリーの取っ手部分に設置されています。バッテリーの取っ手をしっかり握ることで、ロック解除レバーが作動します。



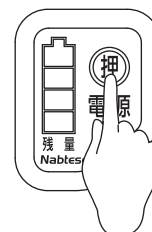
- 4 バッテリーを方向指示シールの向きに合わせ、バッテリー収納部にしっかりと差し込みます。

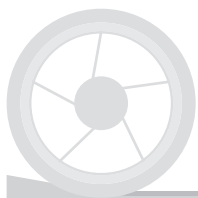
注記

バッテリーは必ず方向を確認してから差し込む
バッテリーの方向を間違えると、端子が変形して故障の原因となります。



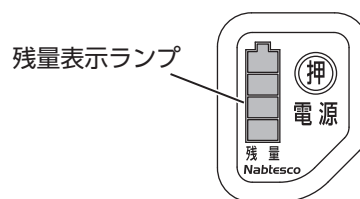
- 5 電源を入れます。
電源スイッチを残量表示ランプが点灯するまで長押ししてください。





- 6 ランプ点滅後、残量表示ランプにバッテリーの残量が表示されます。バッテリーの残量が十分にあることを確認してください。(P15 参照)

 ポイント	残量表示ランプが1つしか点灯していない場合は、バッテリーを充電してください。 残量表示ランプは使用状況や環境により正しく表示されない場合があります。残量に余裕のあるバッテリーを使用してください。
---	--



保護機能

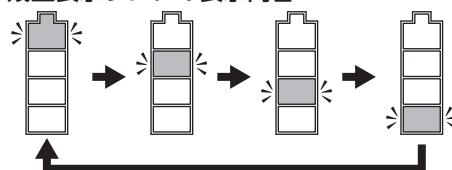
● 過負荷防止機能

アシスト機能を使用中に坂道などで長時間停止したりすると、タイヤがロックされモータに過大な電流が流れ続け、機器の故障や事故の発生につながるおそれがあります。

そのため、モータに大きな負荷がかかった場合は、過負荷防止機能が作動し、残量表示ランプに異常が表示されます。(P16 参照)

過負荷防止機能が作動すると、前進方向への補助力が徐々に弱まってブレーキがかかり、電源を入れなおすまでアシスト機能は使用できなくなります。

残量表示ランプの表示内容

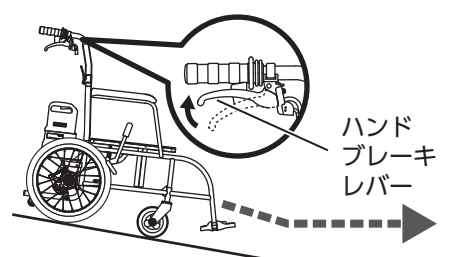


〔 過負荷防止機能作動時の電源の入れなおし方 〕

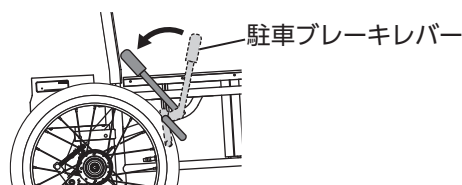
安全のため、以下の手順に従って電源を入れなおしてください。

 警告	坂道の途中で電源を切らない 車いすの使用中にアシスト機能が失われると、車いすを支えきれず事故につながるおそれがあります。
---	---

- 1 ハンドブレーキをかけながらゆっくりと坂道を下り、安全な場所（平地）に移動します。(P20 参照)

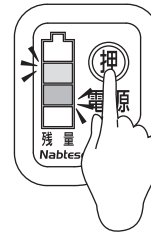


- 2 駐車ブレーキをかけ、タイヤをロックします。
(P19 参照)

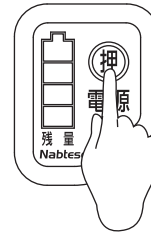




3 電源スイッチを長押しし、電源を切ります。



4 電源スイッチを長押しし、電源を入れます。

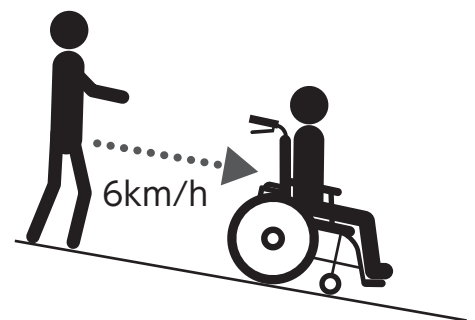


● 加速防止機能

アシスト機能を使用中に、坂道などでハンドルから手が放れ、車いすが一定の速度を超えると、速度を抑えるために加速防止機能が作動します。

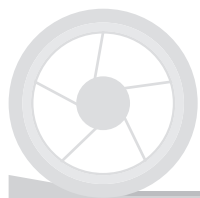
 警告	車いすの走行中はハンドルから手を放さない 加速防止機能が作動しても、車いすは停止しません。 万が一、手がハンドルから放れたときは、速やかに車いすの運転に戻ってください。
--------	--

 ポイント	加速防止機能は、ハンドルから手が放れた状態で時速 6km (速足程度) 以上になると作動します。
----------	--



● オートパワーオフ機能

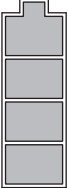
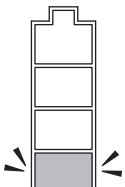
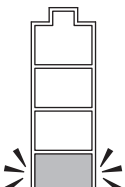
電源を入れた状態で、車いすを15分以上放置すると、電源が自動的に切れます。
使用する場合は、安全な場所（平地）で再度電源を入れてください。

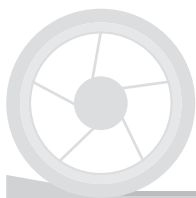


■ 残量表示ランプの内容

電源スイッチ部にある残量表示ランプで、バッテリーの残量および機器の不具合を確認できます。残量表示ランプはバッテリーの使用状況や環境によって正しく表示されないときがありますので、ご注意ください。

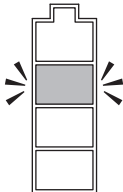
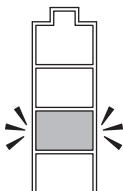
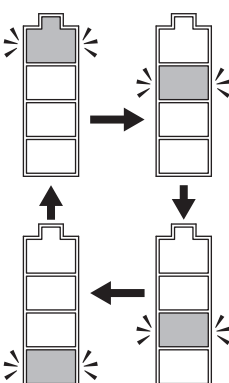
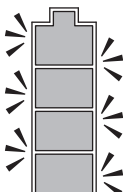
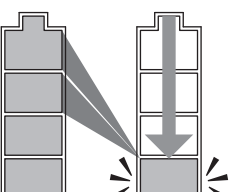
● バッテリーの残量表示

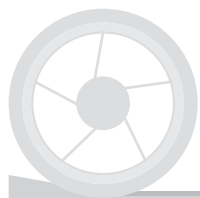
表 示	バッテリーの状態	内 容
	4 個点灯	約 75 ~ 100%
	3 個点灯	約 50 ~ 75%
	2 個点灯	約 25 ~ 50%
	1 個ゆっくり点滅 (0.5 秒点灯 / 0.5 秒消灯)	約 0 ~ 25%
	1 個速い点滅 (0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯)	0%
	点灯なし	バッテリー未接続
		• バッテリーを差し込んで、電源を入れてください • 点灯しない場合は、お買い上げの販売店に連絡してください



● アシスト機能の異常表示

アシスト機能に異常があった場合は、残量表示ランプに表示されます。
異常が表示された場合は、下記の内容に従い適切に処置してください。

表 示		アシスト機能 の状態	処 置
	上から 2 つ目が速い点滅 (0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯)	右側ハンドル部の断線	お買い上げの販売店に連絡 してください
	上から 3 つ目が速い点滅 (0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯)	左側ハンドル部の断線	お買い上げの販売店に連絡 してください
	上から流れるように点滅 をくり返す	過負荷防止機能 の作動	安全な場所 (平地) に移動し、 電源を入れなおしてください (P13 参照)
	4 個速い点滅 (0.1 秒点灯 / 0.1 秒消灯)	電源異常	- 安全な場所 (平地) に移動してください - お買い上げの販売店に連絡してください ※電源を入れなおすと通常使用 できますが、バッテリー周辺に 異常が生じている可能性があります
	3 ～ 4 個点灯時 1 個点滅まで減少	バッテリーの劣化 バッテリー異常	- 安全な場所 (平地) に移動してください - バッテリーの製造番号を点検 してください (P28 参照) - お買い上げの販売店に連絡 してください



車いすの乗り方

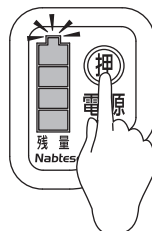
車いすに安全に搭乗していただくため、取扱方法および注意事項は必ず守ってください。



車いすから離れるときは、必ず電源を切り、駐車ブレーキをかける
車いすが勝手に動き出し、事故につながるおそれがあります。

1 電源が入っている場合は、電源を切ります。

残量表示ランプが消灯するまで、電源スイッチを長押ししてください。

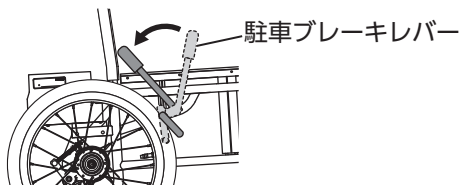


搭乗者なしで車いすを走行させる場合は、電源を切ってください。
搭乗者なしで走行すると、加速防止機能が作動して一時的にブレーキがかかることがあります。

2 駐車ブレーキをかけ、タイヤをロックします。 (P19 参照)



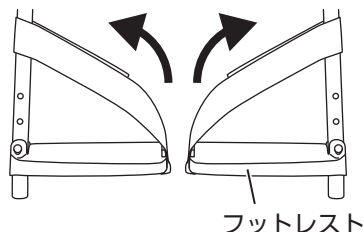
- 車いすを使用するときは駐車ブレーキをかける
タイヤがロックされていないと、車いすが動き出し、事故やけがにつながるおそれがあります。
- 車いすは平地に駐車する
傾斜地での乗り降りは大変危険です。



3 フットレストを上げます。



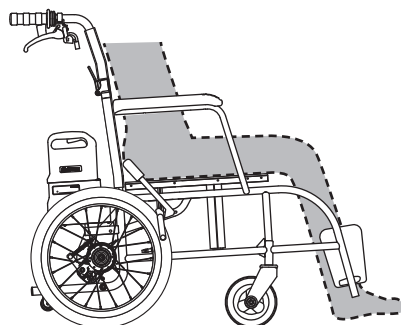
搭乗者が車いすに乗るときは、フットレストを上げる
フットレストを下げたまま座ろうとすると、足をひっかけ転倒するおそれがあります。



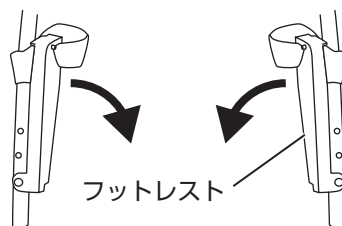
4 搭乗者を車いすにゆっくりと乗せ深く腰をかけさせます。



搭乗者が車いすに乗り終わるまで、介助者は車いすをしっかりと支える
車いすが転倒すると、事故やけがにつながるおそれがあります。



5 フットレストを下げます。



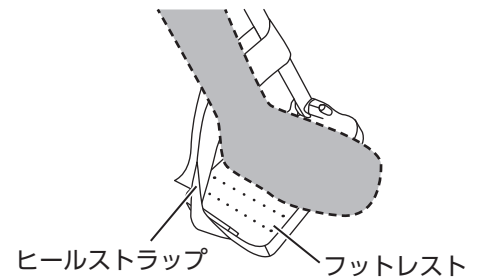


6 搭乗者の足をフットレストに乗せます。



ポイント

足の落下防止のため、搭乗者の足元にヒールストラップが当たるよう、奥までしっかりと乗せてください。



7 搭乗者にシートベルトを着用します。

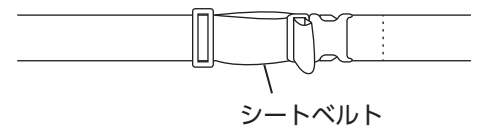
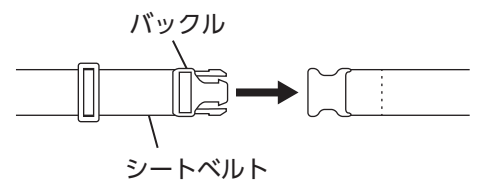
〔シートベルトの着用方法〕

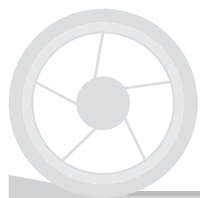
- 1) シートベルトのバックルを、カチッと音がするまで差し込み、ロックします。
- 2) シートベルトが確実にロックされていることを確認します。
- 3) 搭乗者の体型に合わせ、ベルトに緩みがないよう長さを調整します。



警告

- 安全確保のため搭乗者はシートベルトを必ず着用する
- シートベルトは緩みがないよう着用する
- シートベルトは確実にロックする





車いすの運転方法

■ ブレーキの操作

● 駐車ブレーキの操作

駐車ブレーキは駐車時のブレーキおよびモータの補助力停止に使用します。

駐車ブレーキをかけている間はアシストしません。※

※ 下線部は安全スイッチ付駐車ブレーキ装備品限定の機能です。

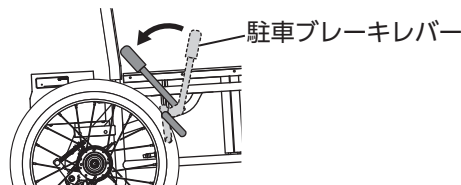


警告

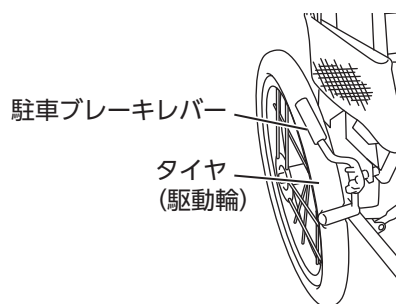
- 車いすは平地に駐車する
傾斜地での駐車は事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキは左右とも作動させる
片側だけにブレーキがかかると、車いすのバランスが崩れ搭乗者が転落するおそれがあります。
- タイヤは常に指定の空気圧を保つ
指定の空気圧以外では駐車ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。
タイヤの空気圧：250kPa[2.5kgf/cm²]（大人の親指で押して少しへこむ程度）
- 車いすから離れるときは、必ず電源を切り、駐車ブレーキをかける。
車いすが勝手に動き出し、事故につながるおそれがあります。

〔 駐車ブレーキのロック方法 〕

左右両側にある駐車ブレーキのレバーを、それぞれ後ろにひきます。



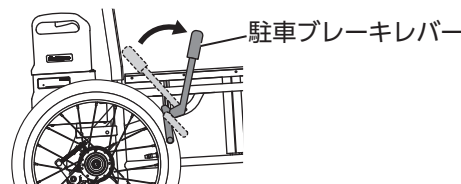
タイヤがロックされます。

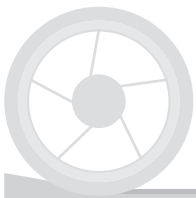


〔 駐車ブレーキの解除方法 〕

左右両側にある駐車ブレーキのレバーを、それぞれ前へ押します。

タイヤのロックが解除されます。





● ハンドブレーキの操作

ハンドブレーキは手動運転時のブレーキおよび速度調整や、アシスト機能使用中の緊急停止に使用します。

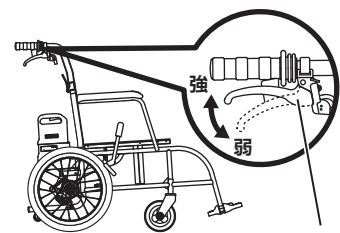


注意

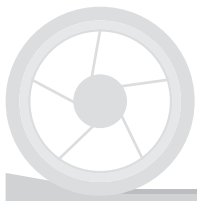
- ハンドブレーキは左右同時に作動させる
片側だけにブレーキがかかると、車いすのバランスが崩れ搭乗者が転落するおそれがあります。
- アシスト機能使用中は、緊急時以外にハンドブレーキを使用しない
ハンドブレーキを使用すると、モータの補助力が徐々に弱まります。

【ハンドブレーキの操作方法】

ハンドブレーキレバーを左右同時に、同じ力で握ります。
握る強さに応じてブレーキの効きが変わります。



ハンドブレーキレバー



■ 車いすの操作

車いすを正しく操作するために、安全上のご注意（P2 参照）および取扱方法を確認してください。
また、車いすは歩行者として扱われます。必ず歩道または道路の右側を走行してください。

● 走行前の確認事項

車いすを走行する前に、必ず以下の項目を確認してください。

- 搭乗者が車いすに正しく座っている
- 搭乗者の足がフットレストに正しく乗っている
- 搭乗者がシートベルトを着用している
- 搭乗者および介助者の体の一部や衣服が車輪や可動部に挟まれていない
- ハンドルに荷物をかけていない
- 駐車ブレーキを解除している

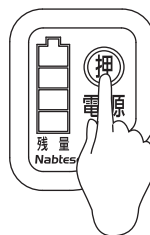
● 車いすの操作方法

車いすはアシスト機能を使用しなくても運転できます。
ただし、モータによる補助力が得られなくなりますので、
坂道の上り下りには特にご注意ください。

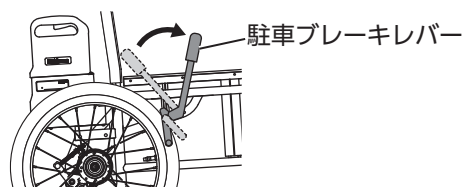
- 1 アシスト機能を使用する場合は、電源を入れます。
残量表示ランプが点灯するまで電源スイッチを長押ししてください。



バッテリーの残量が十分にあることを確認してください。



- 2 駐車ブレーキを前に押して、タイヤのロックを解除します。（P19 参照）





3 車いすを運転します。アシスト機能を使用している場合は、軽い力で運転できます。



注意

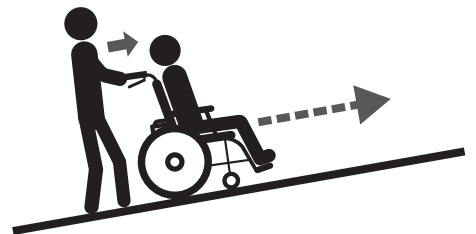
アシスト機能使用中は、緊急時以外ハンドブレーキに触らない
ハンドブレーキを使用すると、モータの補助力が徐々に弱まります。

以下の説明は、アシスト機能の使用を前提にしています。

アシスト機能を使用せずに運転する場合は、モータによる補助力が受けられませんので、坂道を上り下りするときは、ハンドブレーキで速度を調整しながら、しっかりと力を入れて運転してください。
(P20 参照)

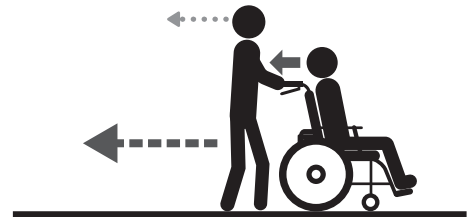
【前進する（平地を進む・坂を上る）】

左右のハンドル部を軽く押し、前方に歩きます。



【後進する】

左右のハンドル部を軽く引き、後方を確認しながら後ろ向きに歩きます。



【坂を下る】

・前向きに下る

左右のハンドル部を軽く引くようにして、前方に歩きます。

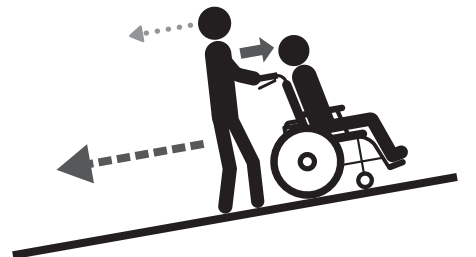
モータが作動し、車いすはゆっくりとした動作で下ります。



・後向きに下る

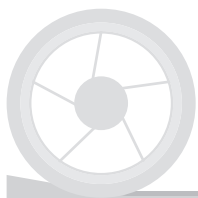
左右のハンドル部を軽く押すようにして、後方を確認しながら後ろ向きに歩きます。

モータが作動し、車いすはゆっくりとした動作で下ります。



ポイント

急な坂道は安全のため後向きに下りてください。



〔キャストを浮かせる（段差や溝の乗越え）〕

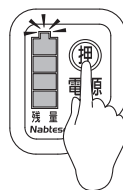
1) 電源を切ります。



注意

電源は必ず切る

電源が入ったままですと、アシスト機能により車いすが後進して、転倒するおそれがあります。



- 2) ティッピングレバーを足で前に押す、または後ろに動かないよう支えます。
- 3) 左右のハンドル部を後ろに引き、キャストを段に上げます。
- 4) タイヤが段差の端に当たるまで進めます。



- 5) 左右のハンドル部を押し上げて、段差を乗り越えます。
- 6) 段差を完全に乗り越えたら停車をし、電源を入れます。

〔停止する〕

・ 通常停止（前進）

左右のハンドル部を軽く引きます。



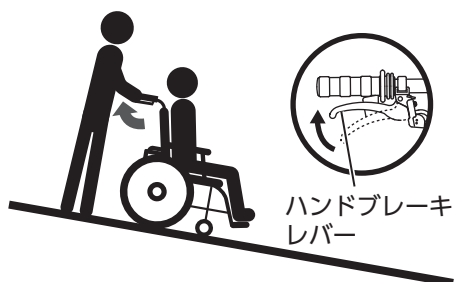
・ 通常停止（後進）

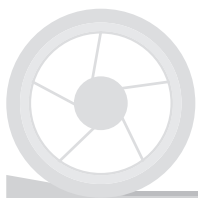
左右のハンドル部を軽く押します。



・ 緊急停止または急な坂道での停止

急に停止する場合や、急な坂道の途中で停止する場合は、ハンドブレーキをかけます。（P20 参照）





車いすの降り方

車いすに安全に搭乗していただくため、取扱方法および注意事項は必ず守ってください。



警告

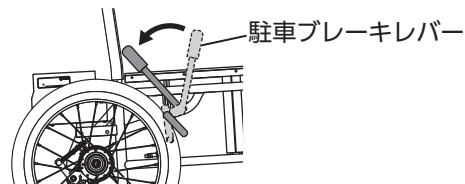
車いすから離れるときは、必ず電源を切り、駐車ブレーキをかける
車いすが勝手に動き出し、事故につながるおそれがあります。

- 1 駐車ブレーキをかけ、タイヤをロックします。
(P19 参照)

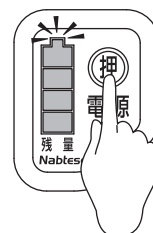


警告

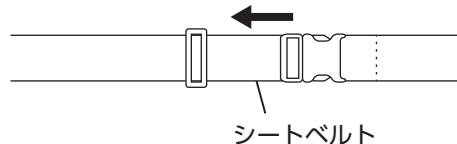
- 車いすから降りるときは駐車ブレーキをかける
タイヤがロックされていないと、車いすが動き出し、
事故やけがにつながるおそれがあります。
- 車いすは平地に駐車する
傾斜地での乗り降りは大変危険です。



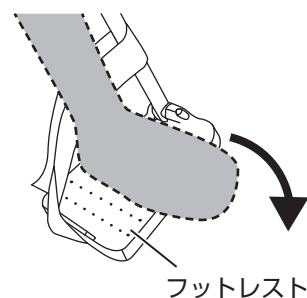
- 2 電源が入っている場合は、電源を切ります。
残量表示ランプが消灯するまで、電源スイッチを長押し
してください。



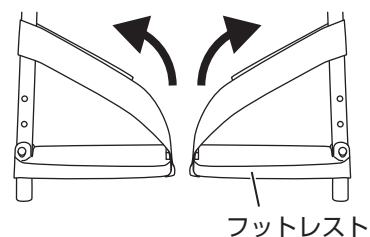
- 3 シートベルトのロックを解除します。



- 4 搭乗者の足をフットレストから下ろします。

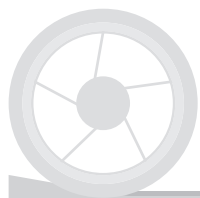


- 5 フットレストを上げます。
搭乗者を車いすからゆっくりと降ろします。



注意

搭乗者が車いすから降り終わるまで、介助者は車いすをしっかり支える
車いすが転倒すると事故やけがにつながるおそれがあります。



車いすの保管

■ 車いすの保管方法

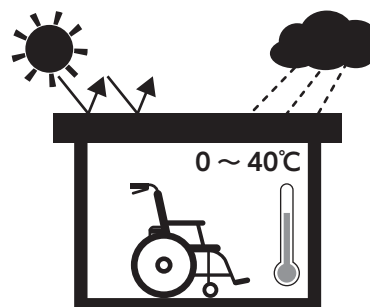
車いすを使用しないときは、必ず**駐車ブレーキをかけてタイヤをロック**（P19 参照）し、**バッテリーを外して**保管してください。

車いすの収納場所が狭い場合は、車いすを折りたたんで収納することも可能です。（P26 参照）

● 収納場所

車いすは以下の条件を満足する屋内に保管してください。

車いすの収納場所条件	
• 雨や水がかからない場所	• 温度が 0 ～ 40℃以内の場所
• 湿度が低い場所	• 砂埃などがかからない場所
• 直射日光が当たらない場所	• 子供が遊ばない場所

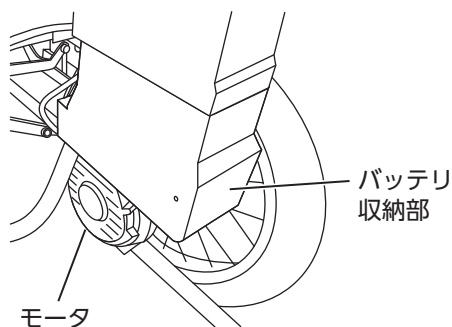


● バッテリーの外し方

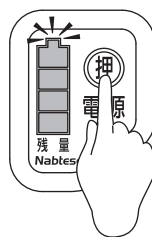


注意

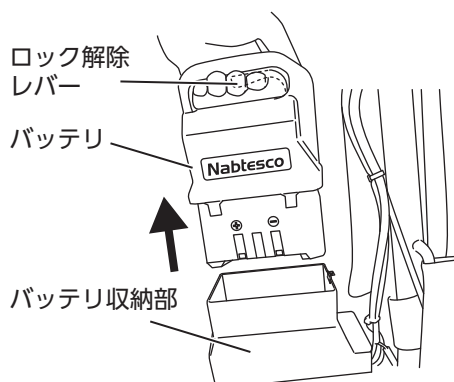
車いすの使用および使用直後はモータとバッテリー収納部には触らない
使用状況により高温になることがあります。
触ると、やけどをするおそれがあります。



- 1 電源を切ります。
残量表示ランプが消灯するまで電源スイッチを長押ししてください。



- 2 バッテリーの取っ手を握り、バッテリーのロックを解除します。
- 3 バッテリーを持ち上げて、バッテリー収納部から取り外します。



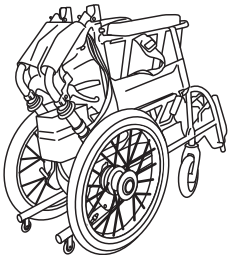
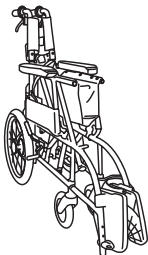
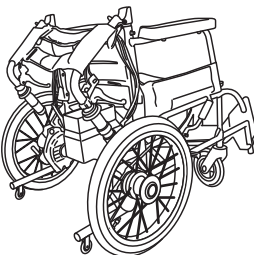


■ 車いすの折りたたみ方

車いすをコンパクトに折りたたみ、狭い場所への収納や車への積載を可能にします。

以下に最少サイズになる折りたたみ方を示します。

座シート部またはハンドル部のみを折りたたみ収納することも可能ですので、収納場所に合わせた折りたたみ方をしてください。

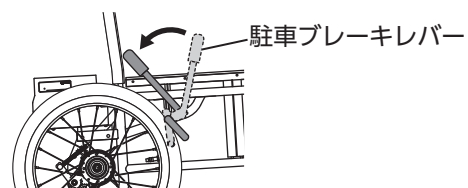
座シート / ハンドル部折りたたみ	座シート折りたたみ	ハンドル部折りたたみ
		



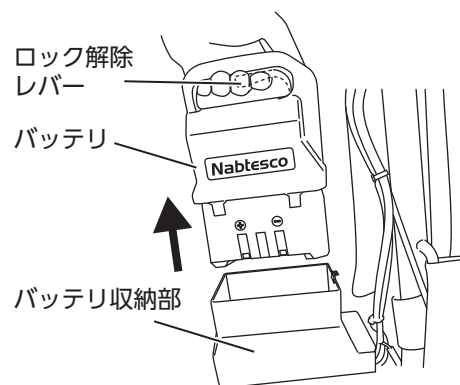
注意

車いすを折りたたむとき、可動部に手を挟まないようにする
可動部に手が挟まれると、けがをするおそれがあります。

- 1 駐車ブレーキをかけ、タイヤをロックします。
(P19 参照)



- 2 電源を切り、バッテリーを外します。(P25 参照)

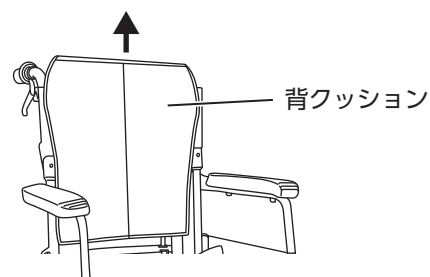


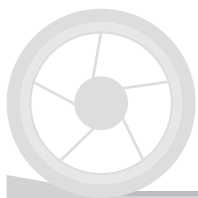
- 3 背クッションを外します。



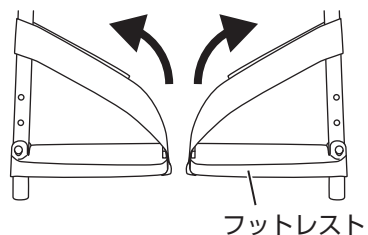
ポイント

収納時には背クッションをはずしてください。
背クッションを付けたまま折りたたむことは可能ですが、背クッションに跡がついたり、折りたたみサイズが大きくなったりします。

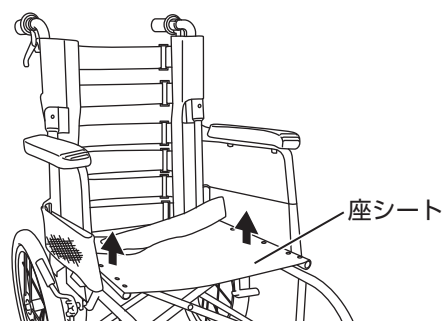




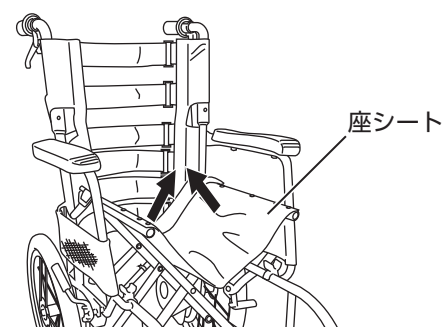
4 フットレストを上げます。



5 座シートを折りたたみます。
座シートの左右のふちを持ち上げ、座シートをフレームのストッパから取り外してください。

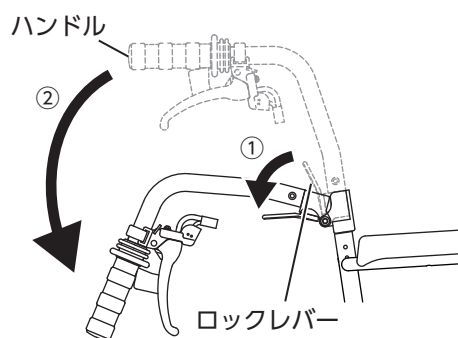


6 座シートのふちが合わさるよう、折りたたみます。



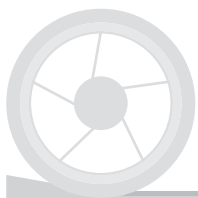
7 ハンドル部を折りたたみます。
ハンドルを握りながら、背折れジョイント部のロックレバーを引いてロックを解除します。

8 ハンドル部を後方に倒します。



9 折りたたみは完了です。





バッテリーの取扱方法

■ バッテリーの長期保管

バッテリーは自己放電により、使用していなくてもバッテリーの容量が徐々に減ります。長期保管をする場合は下記の項目を守ってください。

- 直射日光の当たらない、湿度の低い屋内に保管してください。
- バッテリーは満充電で保管してください。自己放電による影響が緩和されます。
- 長期保管後は、使用前に再充電してください。
- 1年を超える長期保管後は、使用前に充電をしてからリフレッシュ充電をしてください。充電だけでは、保管前の状態に戻らないことがあります。

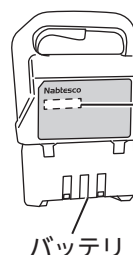
■ バッテリーの点検と交換



劣化しているバッテリーは速やかに交換する。
走行中にアシスト機能が失われると、事故につながるおそれがあります。
充電回数 **約 500 回***または **約 2 年***使用した場合は、交換してください。
※ バッテリー寿命は、使用内容や使用環境により異なります。

● バッテリーの点検

- バッテリー背面のシールに記載されている製造番号を確認します。
製造年月から 2 年経過または約 500 回充電した場合は、バッテリーを交換してください。



[2020年3月以降 (6ケタ)]
例: 製造年月2020年10月

製造番号 **20X001**
年 月.....;

1~9: 1~9月,
X: 10月, Y: 11月, Z: 12月

[2020年3月以前 (4ケタ)]
例: 製造年月2017年11月

製造番号 **17-11**
年 月

- バッテリーの減り方が早くなってきた場合は、早めに交換をしてください。



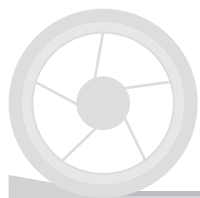
- 急な坂道での使用頻度が高くなると、バッテリーの消耗が激しくなります。
早めの確認および交換をしてください。



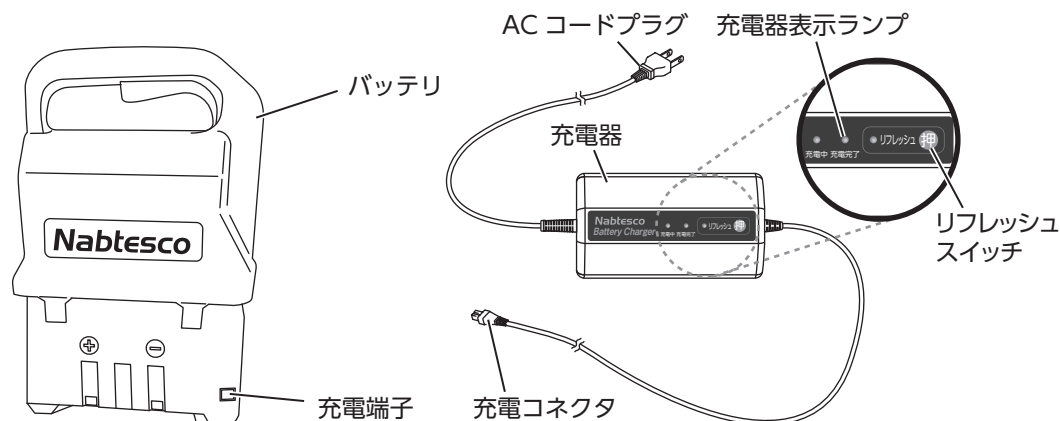
● リサイクル



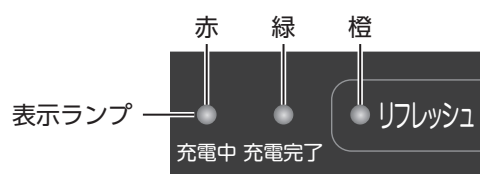
バッテリーのリサイクルにご協力ください。
ご使用済みのバッテリーは、**お買い上げの販売店でリサイクル**してください。



■ バッテリおよび充電器の各部名称

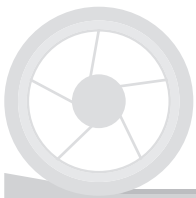


■ 充電器表示ランプの内容



- …… 消灯 ● …… 点滅 (点滅 / 消灯: 0.5 秒 / 1 秒)
 ● …… 点灯 ● …… 速い点滅 (点滅 / 消灯: 0.2 秒)

内 容	表示ランプ状態		
	充電中 (赤)	充電完了 (緑)	リフレッシュ放電中 (橙)
ACコード接続	● 赤 ⇒ 緑 ⇒ 橙 の順で点滅		
バッテリー未接続	●	●	●
充電待機 (温度範囲外)	●	●	●
充電中	●	●	●
リフレッシュ待機 (温度範囲外)	●	●	●
リフレッシュ中	●	●	●
充電完了	●	●	●
異常動作	●	●	●
バッテリー異常	●	●	●
充電異常	●	●	●



■ バッテリーの充電方法

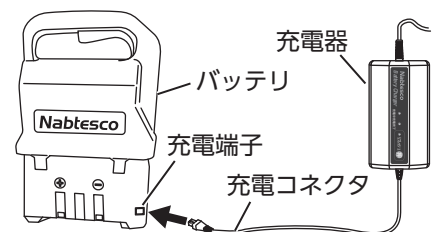
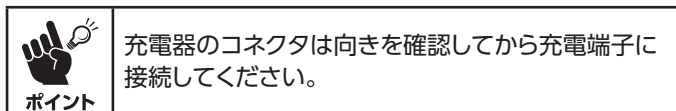
充電方法は消費分を回復する充電と放電後充電するリフレッシュ充電の 2 種類あります。
バッテリーの性能を回復するため、月に一度リフレッシュ充電をしてください。

● 充電の手順

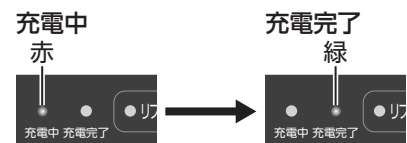
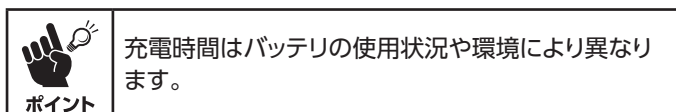
- 1 AC コードのプラグを、100V コンセントに差し込みます。



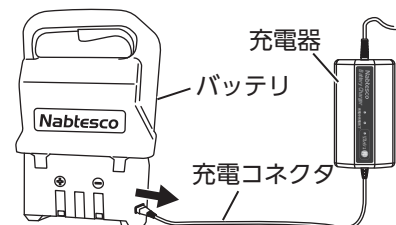
- 2 バッテリーの充電端子に、充電器のコネクタを接続します。充電が開始されます。



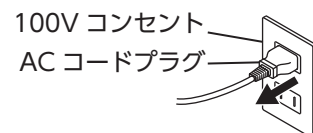
充電は約 120 分で完了します。

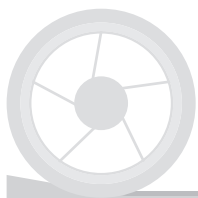


- 3 充電完了後、充電器のコネクタをバッテリーから取り外します。



- 4 AC コードのプラグを、100V コンセントから抜きます。





● リフレッシュ充電の方法

リフレッシュ充電では、放電と充電が自動的に行われます。

バッテリーの電力を完全に放電させてから充電を行うことで、バッテリーの性能を回復し、走行時間の低下を防ぎます。

注記

リフレッシュ充電は月に1回を目安に行う

リフレッシュ充電を頻繁に行うと、バッテリーの劣化を促進します。

リフレッシュ充電は適切に行ってください。

手順 **1** ～ **2** は充電と同様です。P30 の手順 **1** ～ **2** を参照してください。

- 3** 充電コネクタ接続後 5 分以内に、充電器のリフレッシュスイッチを押してください。

リフレッシュスイッチ



放電が開始されます。

リフレッシュ中



放電が完了すると、充電が開始されます。

リフレッシュ充電は、放電から充電まで最大 12 時間程かかります。

充電中
赤



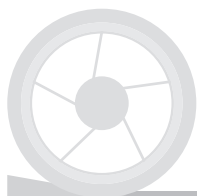
充電完了
緑



ポイント

充電時間はバッテリーの使用状況や環境により異なります。放電前のバッテリー残量が少ないほど、充電時間は短くなります。

充電後の手順は充電と同様です。P30 の手順 **3** ～ **4** を参照してください。



保守・点検

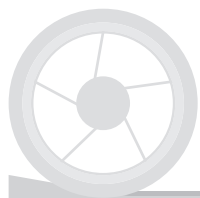
■ 保守・点検の必要性

アシストホイールを構成している部品には、使用による摩耗や劣化が避けられない部品があります。劣化した部品をそのまま使い続けると事故につながるおそれがあります。安全にアシストホイールをお使いいただくために、必ず点検を行い、調整・修理・部品交換の実施をお願いいたします。

■ 点検の種類

点検には、以下の3つの点検があります。
お客様自身に行っていただくものと、販売店や当社などで実施するものがあります。
販売店や当社などで行う点検の費用については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

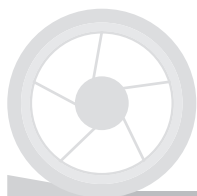
種類	内容
使用前点検	お客様自身がアシストホイールを使用する前に、必ず実施していただく点検です。
日常点検	お客様や販売店などが日常、アシストホイールを使用している中で、走行距離や使用時の状況などから判断した適切な時期に行う点検です。 月1回を目安に、使用頻度が高い場合は、よりこまめに点検を行ってください。
定期点検	販売店や当社などにより定期的に行われる点検です。 日常点検項目に加え、普段見られない項目についても点検を行います。 定期点検は2年ごとに実施しますが、以下の条件にあてはまる場合は、より短期間に定期点検を行ってください。 [条件] ・一週間あたりの走行距離が5km以上。 ・一週間あたりの走行の内、舗装されていない道や、電源OFFでの走行距離が1km以上。 ・一週間あたりの充電回数が5回以上。



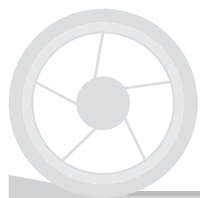
■ 点検一覧表

以下に主な点検項目と点検時期について示します。

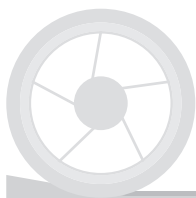
点検項目			点検種類			推奨交換時期	備考
			使用前点検	日常点検	定期点検		
機械関係	フレーム全体	1. 全体のきしみ、ガタ、変形、ひび 2. 折り畳み動作のスムーズさ 3. X バー締結部のボルト脱落		● ●	● ● ●		
		背折れジョイント 1. ロックレバーでの固定、ガタ 2. 取付部ボルトゆるみ、脱落			● ●		
		バックサポートベルト 1. 締結ボルトのゆるみ 2. マジックテープの調整・固定			● ●		
		座シート 1. 締結ボルトのゆるみ			●		
		シートベルト 1. バックル着脱・ロック・破損 2. ベルト切り傷 3. 締結部のゆるみ		●	● ● ●		
		アームレスト 1. アームレストガタ、破損、変形 2. 服まきこまれ防止ネットやぶれ 3. 締結部のゆるみ		●	● ● ●		
		フットレスト 1. ボルトゆるみ 2. ガタ、変形、割れ 3. 自重落下なし		● ●	● ● ●		
	シート	背クッション 1. マジックテープの固定		●	●		
		ヒールストラップ 1. マジックテープの固定		●	●		



点検項目			点検種類			推奨交換時期	備考
			使用前点検	日常点検	定期点検		
機械関係	ブレーキ部	ハンドブレーキユニット 1. 締結ゆるみ 2. 電源スイッチ部のガタ			● ●		
		ハンドブレーキレバー 1. レバー戻り・ワイヤ調整 2. ブレーキ力		●	● ●		
		ブレーキケーブル 1. ワイヤほつれ、亀裂、キズ、変形 2. ワイヤ締付ナットゆるみ 3. ワイヤ交換			● ● ●	2 年	
		駐車ブレーキ 1. ガタ、レバー曲がり、折損 2. 締結ゆるみ 3. ブレーキ力		● ●	● ● ●		
	足回り	前輪キャスト 1. ホーク回転 2. ホーク締結部のゆるみ 3. 車輪回転 4. 車輪締結部のゆるみ 5. ゴム劣化、摩耗 6. キャスタ交換		● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	3 年	
		駆動輪 1. 空気圧 (250kPa) 2. 空気漏れ 3. タイヤ摩耗、ひび割れ、硬化 4. 回転振れ、異音 5. 車輪締結部のゆるみ		● ● ● ●	● ● ● ●		
		モータ 1. 締結部のゆるみ			●		
		転倒防止輪 1. 締結のゆるみ・脱落・欠損 2. 防止輪摩耗			● ●		
	その他	注意シール 1. ハンドルシール 2. 注意シール (ティッピングレバー部) 3. 駐停車注意シール 4. 登坂注意シール (バッテリー収納部)			● ● ● ●		



点検項目			点検種類			推奨交換時期	備考
			使用前点検	日常点検	定期点検		
制御関係	通常機能	アシスト機能 1. 前進⇒停止 2. 後進⇒停止			● ●		
	ハンドル部	蛇腹部 1. はずれ、やぶれ 2. 蛇腹部の交換		●	● ●	3年	
		グリップセンサ 1. センサ異常 2. センサ動作（可動域） 3. センサの交換 4. グリップの交換	●		● ● ● ●	6年 3年	
		安全スイッチ 1. 機能			●		
	バッテリー・バッテリー収納部	バッテリー 1. 電池残量の減りの早さ 2. 劣化チェック（使用年、容量、内部抵抗） 3. ロック機構 4. 端子汚れ・変形 5. 本体破損、亀裂、変形 6. 交換		●	● ● ● ● ●	2年	
		バッテリー収納部 1. ロック機構 2. 端子汚れ・変形			● ●		
	その他	駐車ブレーキ安全スイッチ※ 1. 機能 2. 変形・取付・異物・ガタ			● ●		※取り付けられていない機体もあります。
		電気配線（ハーネス） 1. コネクタのゆるみ・破損 2. 配線の固定 3. 交換			● ● ●	6年	



■ 点検チェックリスト

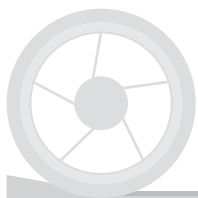
異常が見つかった場合は、使用を控えて、お買い上げの販売店に連絡してください。
異常のある車いすを使用し続けると、事故の原因につながります。

● 使用前点検のチェックリスト

点検項目	チェック
グリップを操作していないときに勝手に動き出さない (P37 参照)	

● 日常点検のチェックリスト

	点検項目	チェック
機械関係	走行や折りたたみ動作はスムーズにできる	
	走行中にきしみ音やこすれ音などの異常な音はしない	
	シートベルトは正常にロックできる	
	フットレストがきちんと固定されている	
	フットレストを上げた時、自重で下がってくる事はない	
	背クッション、ヒールストラップがきちんと固定されている (マジックテープに異常がない)	
	駐車ブレーキおよびハンドブレーキを操作すると、タイヤが確実にロックする (P19 参照)	
	前輪キャストのホークや車輪はスムーズに回転する	
	タイヤの空気圧は 250kPa[2.5kgf/cm ²] を保っている (P38 参照) (大人の親指で押して少しへこむ程度)	
制御関係	以下部位に異常 (ガタ・変形・ひび割れ・劣化など) がない ・フレーム全体・フットレスト・駐車ブレーキ・前輪キャスト・駆動輪	
	ハンドルの蛇腹部に破れやめくれはない (蛇腹内に水が浸入していない)	
使用・保管方法	バッテリーは劣化していない (バッテリーの減りが以前より早い、残量表示が急に1個点減になるなどはない)	
	風雨にさらされることのない屋内に保管し、雨天使用・水洗いは控える	
	10°を超える坂道・スロープで使用しない	
	車いすから離れるときは、必ず電源を切り、駐車ブレーキをかける	
	ハンドル部に荷物をかけない、ハンドルの蛇腹部をむやみに触ったりしない、 配線を引っ張らない	



■ 使用前点検

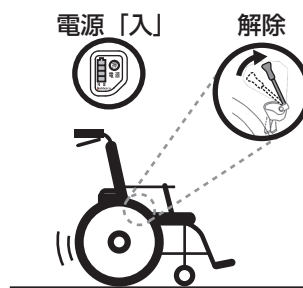
グリップセンサへの浸水やセンサ・配線等に故障が生じると、操作していないのに動き出す可能性があります。使用前に必ずグリップセンサに異常がないか点検してください。

● 確認方法

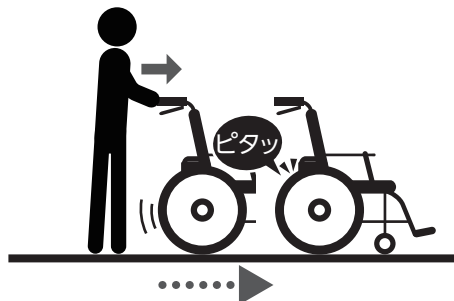


- 人が搭乗していない状態で行う
- 障害物のない平地で行う

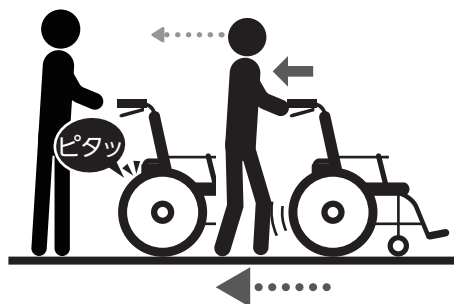
1 電源を入れ、駐車ブレーキを解除します。



2 グリップを軽く 10cm 程度前に押しながら手を離し、車体が 2 秒以上停止することを確認します。



3 グリップを軽く 10cm 程度後ろに引きながら手を離し、車体が 2 秒以上停止することを確認します。



- 点検中は必ずグリップ操作可能な位置で待機してください。
- 車体が止まらない場合はグリップを持ち、ハンドブレーキをかけて停止してください。

車体が止まらない場合は、使用を中止しお買い上げの販売店にご連絡ください。



確認動画



■ 日常のお手入れ

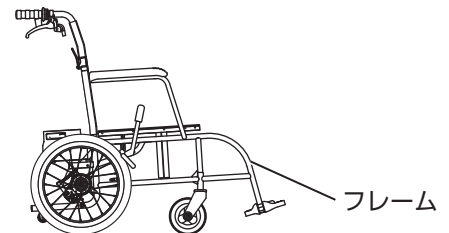
日常のお手入れは、欠かさず行ってください。
お手入れ前に、安全上のご注意をよく読み、理解してから行ってください。(P2 参照)

・ フレームのお手入れ

フレームを乾いた布で拭いて、汚れを取り除きます。
手入れを怠ると、さびることがあります。フレームのお手入れは定期的に行ってください。

注 記

フレームを拭くときは乾いた布を使用する
水や薬品を使用すると、さびの原因になります。

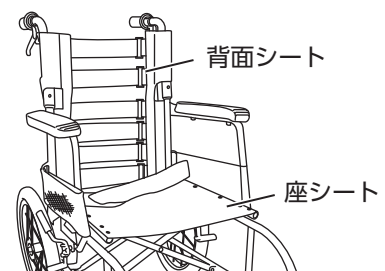


・ シートのお手入れ

シートが汚れたときは、水を含ませ固く絞ったタオルなどですぐに拭き取ってください。

注 記

- ・シートを拭く布は、水滴が落ちなくなるまで固く絞る
- ・シート以外に水がかかると、さびや電気系統の故障の原因になります。
- ・シートを拭くときは薬品を使用しない



・ バッテリーのお手入れ

バッテリーの接触不良を防ぐため、バッテリーの端子を乾いた布で片方ずつ拭いてください。

注 記

端子を拭くときは乾いた布を使用する
水や薬品を使用すると、さびや電気系統の故障の原因になります。



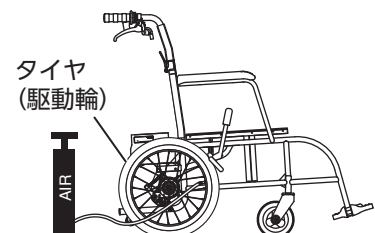
・ タイヤのお手入れ

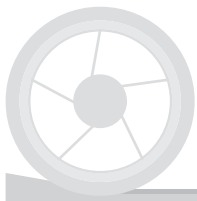
タイヤが一定の空気圧を保つよう、定期的に空気を入れます。

空気圧：250kPa[2.5kgf/cm²]



タイヤの空気は、大人の親指で押して少しへこむくらいを目安に入れます。





■ 車いすをぬらした場合のお手入れ

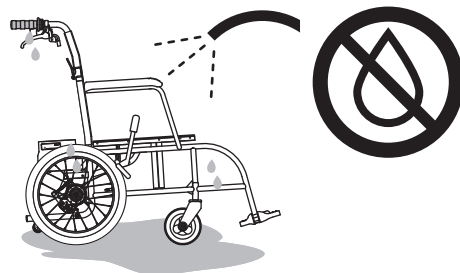
車いすの運転前および保管前に、車いすが水などでぬれていないことを確認してください。
お手入れ前に、安全上のご注意をよく読み、理解してから行ってください。(P2 参照)

・運転前、保管前の点検

車いすが水などでぬれていないか点検します。
車いすがぬれている場合は、適切に処置してください。

注記

ぬれた状態で使用、保管しない
ぬれた状態を放置すると、さびや電気系統の故障の原因になります。

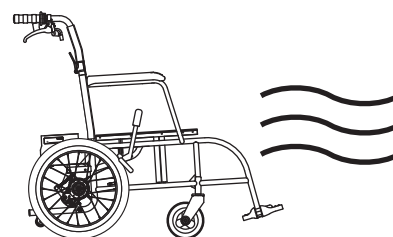


・ぬれている場合のお手入れ

車いすがぬれているときは、乾いた布で拭き、よく乾燥させてください。

注記

- 水を拭くときは乾いた布を使用する
水や薬品を使用すると、さびや電気系統の故障の原因になります。
- 拭いた後は、必ず乾燥させる
湿った状態を放置すると、さびや電気系統の故障の原因になります。



・処置後の点検

以下の点検を行ない、車いすに異常がないことを確認してください。異常が発生した場合は、**使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください。**

〔動作点検〕

車いすが勝手に動き出さないことを点検します。
点検は、平地で行ってください。

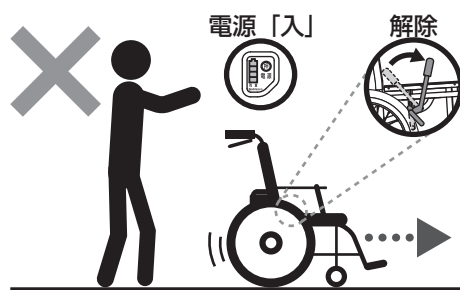
- 1 電源を入れます。
- 2 駐車ブレーキを解除した状態で、ハンドルから手を放します。車いすが勝手に動作した場合は、入力センサに異常が発生しているおそれがあります。

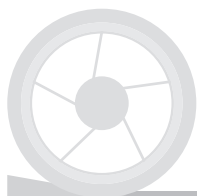
〔日常点検〕

日常点検を行ない、異常がないことを点検します。
(P36 参照)

注記

破損、故障していないことを必ず確認する
水ぬれにより、さびや電気系統が故障しているおそれがあります。





故障かな？

本製品をご使用中に故障かなと思われたときは、以下の項目を確認してください。

■ 車いすの走行時

症状：アシスト機能使用時、車いすの操作が重くなった

原 因	対処方法	参照
駐車ブレーキがかかっている	ブレーキを解除してください	P19
ハンドブレーキをかけている		
残量表示ランプが点灯していない	・ バッテリーを正しく装着してください ・ 電源を入れてください	P12
バッテリーが充電されていない	・ バッテリーを充電する ・ 充電されているバッテリーと交換する	P30
残量表示ランプの一番下が点滅している		
残量表示ランプの一番下以外が点滅している	残量表示ランプの内容を確認し、適切に処置してください。	P15
上記以外	使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	—

症状：まっすぐ走れない

原 因	対処方法	参照
ブレーキがかかっているのに、車輪が回らない	使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	—
ブレーキがかかっているのに、片方の車輪しか回らない		

症状：アシスト機能の走行時間が短い

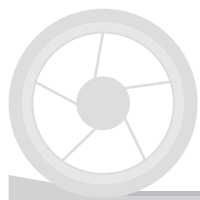
原 因	対処方法	参照
バッテリーが十分に充電されていない	・ 充電されているバッテリーと交換する ・ バッテリーをリフレッシュ充電する	P31

症状：駐車ブレーキまたはハンドブレーキの効きが甘い

原 因	対処方法	参照
タイヤの空気圧が十分ではない	タイヤに空気を入れてください	P38
上記以外	使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	—

症状：煙が出たり異臭がする

原 因	対処方法	参照
アシスト機能に異常が発生した	・ 電源を切りバッテリーをはずしてください ・ 使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	P25



症状：駐車ブレーキまたはハンドブレーキをかけてもモータが止まらない

原因	対処方法	参照
モータに異常が発生した	・電源を切りバッテリーをはずしてください ・使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	—
安全スイッチ*に異常が発生した		

※安全スイッチ付駐車ブレーキ装備品ではない場合、駐車ブレーキをかけてもモータは止まりません。

■ バッテリ充電時

症状：充電されない

原因	対処方法	参照
バッテリーまたは充電器に異常が発生した	・充電器の表示ランプを確認してください。 ・使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	P29
ACコードのプラグがAC100Vコンセントから抜けている	AC100Vコンセントにプラグを差し込んでください	P30
充電器の充電コネクタがバッテリーから抜けている	バッテリーにコネクタを差し込んでください	P30

症状：充電がすぐに終わる

原因	対処方法	参照
充電済のバッテリーを充電している	再充電でも充電がすぐに終わる場合は、充電が完了しています	—

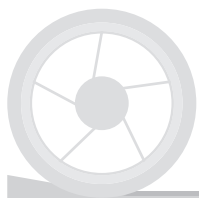
症状：充電が待機状態から進まない

原因	対処方法	参照
走行直後などでバッテリーの温度が高い	・温度が下がるまで待機してください ・涼しいところに移動してください	—
炎天下や高温下で充電している		

症状：充電器の表示ランプが早い点滅（0.2秒ごと）をしている

症状：煙が出たり異臭がする

原因	対処方法	参照
バッテリーまたは充電器に異常が発生した	・ACコードのプラグをAC100Vコンセントから抜いてください ・バッテリーから充電コネクタを外してください ・使用を中止し、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください	P30



製品仕様

■ 介助用電動アシスト車いす

名 称	アシストホイールライト
型 式	NAW-16F-SD-LT
タイヤサイズ	16 インチ
キャストサイズ	6 インチ
本体外形寸法（全長×全幅×高さ）	1040 ～ 1060 × 560 × 855mm
座シート折りたたみ時の全幅	335mm
重 量	16.9kg（バッテリー、背クッションを除く）
制御方式 / 駆動方式	マイコン制御 / 電動モータ駆動
電 源	ニッケル水素電池 24V 3Ah または 3.2Ah
実用登坂角度	10°（速度：約 2km/h）※ ¹
連続走行距離	7km または 8km（速度：約 4km/h）※ ¹ 、※ ² 、※ ³
使用温度範囲	0 ～ 40℃（ただし結露のないこと）
搭乗者最大体重	75kg（積載物含）
標準装備品	背張り調整機能、背クッション、背折れ機能、 転倒防止輪、シートベルト

※¹ 充電済バッテリー（新品）、周囲温度：約 25℃、搭乗者の体重：75kg の条件で測定

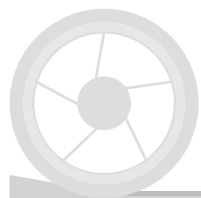
※² ナブテスコパターンで走行
直線平坦路：13%、3°上り：43.5%、3°下り：43.5%

※³ 電源が 3Ah の場合は 7km、3.2Ah の場合は 8km

■ 充電器

電源（AC 入力）	AC100 ～ 240V 50-60Hz
定格出力（DC 出力）	DC28V 1.65A
充電時間	約 120 分※
使用温度範囲	0 ～ 40℃（ただし結露のないこと）
使用バッテリー	アシストホイール専用バッテリー（Ni-MH 24V）

※バッテリーの使用状況や環境などにより異なります。



保証とアフターサービスについて

■ 保証規定

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。当該製品の当社での修理により取付け、据付けなどをした修理部品については、修理完了日から6か月間保証します。

本製品が保証期間内に自然故障をした場合は、無償で修理いたします。

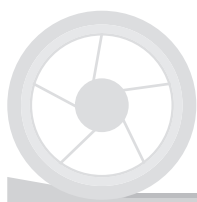
ご使用中に万一故障した場合は、**お買い上げの販売店**にご連絡ください。

ただし、以下の場合は保証期間内であっても、無償修理の対象外とさせていただきます。

- ア) 取扱方法の誤りによる故障
- イ) 落下・圧迫・衝撃などによる故障
- ウ) 手入れ不良による故障
- エ) 製品の分解、または改造による故障
- オ) 専用の部品以外を使用した場合
- カ) 自然災害や異常電圧など、外的要因による故障
- キ) 消耗品や、各部の劣化による故障および損傷
- ク) 仕様・性能の限度を越える使用をした場合
- ケ) 保証書の提示がない場合

● ご注意

- ・ 利用者の急激な体調の変化など、利用者側の事情や、本書記載の警告、注意事項に反するご使用により事故が発生した場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
- ・ 本製品の故障、またはその使用により生じた直接、間接の障害について、弊社は一切の責任を負いかねます。
- ・ 一度ご使用になった商品は、原則として返品あるいは交換いただけません。
- ・ 実費修理に要する運賃などの諸経費はお客様負担とさせていただきます。



Memo



Memo

保証書

この保証書は、当社保証規定に基づき、明示した期間・条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。

* 印がついている項目に必要な事項を記入してください。

商品名	アシストホイールライト
型式	NAW-16-F-SD-LT
車体番号	
保証期間	お買い上げ日より 1 年間
お客様 (*)	お名前
	〒 ご住所
	電話番号
販売店 (*)	店名・住所
	電話番号

※本保証書は、日本国内においてのみ有効です。

※本保証書は、再発行しません。大切に保管してください。

製造元

お問い合わせ先

TEL: 078-413-2724

営業時間: 8:45 ~ 16:45 (土日祝休み)

FAX: 078-413-2725

ナブテスコ 株式会社

住環境カンパニー 福祉事業推進部

〒658-0024 兵庫県神戸市東灘区魚崎浜町 35

<https://welfare.nabtesco.com>